

駐輪場混雑 スマホ案内

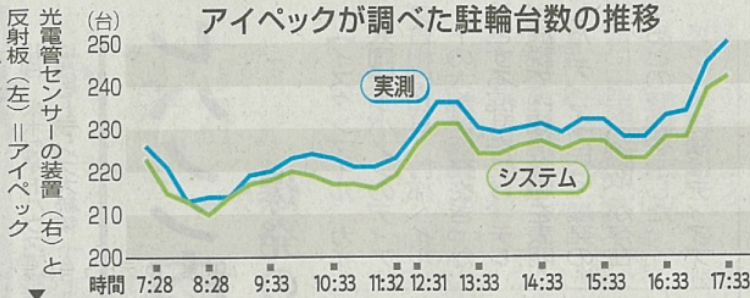
アイペック 来春商品化目指す

構造物検査・診断のアイペック(富山市中田、東出悦子社長)は、光電管センサーで自転車の出入り台数を調べ、駐輪場の混雑状況をスマートフォン上で表示・案内するシステムを開発し、来年春季の商品化を目指す。満車で自転車を止められない状況を事前に把握することで利便性を高める。学生らの動きを把握できるデータは、スムーズな交通運行などにも役立つ可能性がある。

(熊台浩二)

るアプリ開発にも取り組む。システムの販売価格は10万円前後を想定する。駅高架下での実証実験では、駐輪台数のピークは夕方方に生じ、午前8時半前後が最も少なかった。富山駅で電車を降りた高校生が駐輪場で自転車に乗り換え、学校に向かっている実態が

アイペックが調べた駐輪台数の推移



システムでは駐輪場の出入り口に光の有無を調べる光電管センサーと反射板を向かい合うように取り付け、センサーから飛ばした光が反射板ではね返ってくる仕組みで、自転車が通過して光が遮られた回数を検知する。光の遮り方のパタ

ーンの違いで、人か自転車を区別する機能を独自に考案した。

富山市のデータ収集システム「センサーネットワーク」の活用を探る同市の事業の一環として、1、2月に富山駅高架下の駐輪場で実証実験を行った。センサーのカウンタ数と駐輪台数の実測値の誤差、ネットワークへの接続状況を調べた。誤差は10%未満で精度の高さを確認した。

実証実験は9月から再開する予定。実験期間を延ばすほか、実施場所を地下と屋外の2カ所に増やす。満車や空車の情報を確認でき

データで浮かび上がってきたという。

東出社長は「台数の変化から学生の行動が推測できる。駅と学校を結ぶスクーリングバスの運行など新たなまちづくりのヒントが得られる」と話した。